

人文会ニュース

jinbunkai news

April 2020

NO. 134

1
15分で読む

「アイヌ文化」の歴史と現在

中川裕

15
書店現場から

人文書フェアを終えて

亥角理絵

22
図書館レポート

課題解決型図書館 オートピア高知図書館の取組み

山重壮一

33
編集者が語るこの叢書・このシリーズ⑦

季刊誌『発達』、40歳

丸山碧

——「発達」を育む旅をつづけて



www.jinbunkai.com

別冊太陽 日本のこころ 280

アイヌをもっと知る図鑑

歴史を知り、未来へつなぐ 別冊太陽編集部編

北海道に先住してきたアイヌ民族の歩みに、考古学・歴史学・民俗学・文学・芸史・生活史・芸術など様々な角度からアプローチ、第一線の研究者の解説と豊富な資料で紹介する。A4変型判 本体2600円＋税



平凡社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29
tel 03-3230-6573 fax 03-3230-6587
<https://www.heibonsha.co.jp>

相対化する知性

人工知能が世界の見方をどう変えるのか

西山圭太 「著」 人工知能を通じた新しい時代の教養

松尾豊 「著」

小林慶郎 「著」

■2700円＋税

ストレングス・トーク 井上祐紀「著」

行動の問題をもっと子どもを支え育てる子どもの支援や子育てに奮闘するあなたに！

■1800円＋税



脳と心の考古学

統合失調症とは何だろうか

糸川昌成「著」

心はどこまでたんぱく質なのか。心の謎に迫る ■2500円＋税



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL: 03-3987-8621 <https://nippyo.co.jp>

法政大学出版局 <http://www.h-up.com/>

《叢書・ユニベルシタス 1109》

イシスのヴェール

自然概念の歴史をめぐるエッセー P. アド 著／小黒和子 訳

「自然は隠れることを好む」。ヘラクレイトスの謎の箴言から、25世紀にわたる人類の自然探究が始まる。慎しみ深く身を隠す女神の真実。 5000円

《叢書・ユニベルシタス 1102》

アメリカのニーチェ ある偶像をめぐる物語

ラトナー＝ローゼンハーゲン 著／岸正樹 訳

エマソンの愛読者ニーチェの哲学が、20世紀米国の文化や宗教、リベラリズムやプラグマティズムにもたらした影響とは？ 思想史の労作。 5800円

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
☎ 03 (5214) 5540 / 表示価格は税別です

東大教養学部の人気公開講座を書籍化！

東京大学教養学部【編】

知のフィールドガイド 異なる声に耳を澄ませる 【新刊】

古典文学からA1事情まで、人文科学を幅広く見渡す一冊。 本体1800円＋税

知のフィールドガイド 生命の根源を見つめる 【新刊】

原子時計からiPS細胞まで、自然科学を幅広く見渡す一冊。 本体2200円＋税

知のフィールドガイド 科学の最前線を歩く 【好評既刊】

本体2400円＋税

白水社 東京都千代田区神田小川町3-24
tel.03-3291-7811 / fax.03-3291-8448

「アイヌ文化」の歴史と現在

アイヌ文化とは

現在私たちが「アイヌ文化」と呼んでいるものは、1869年に開拓使が設置され、それまで蝦夷地と呼ばれていた島が北海道と呼称されるようになり、大量の和人（日本のマジョリティ）が北海道に流入して、そこに住んでいた人びとの生活を一変させてしまった時期までに、北海道、樺太南部、千島列島で形成されていた文化を指すのが一般的な解釈である。アイヌの人びとは現在も北海道中心に全国各地に住んでおり、周囲の和人と変わらない暮らしを送っているが、通常、現代の彼らの生活様式をアイヌ文化と言うことは無い。

中川 裕（千葉大学文学部教授）

わざわざこのようなことを言うのは、いわゆる日本文化——つまり和人の文化も、今から150年前と現在とでは大きく変貌しており、多くの人が日常的に洋服を着、自動車を乗り回し、ネット通信を行っている。その中で、成人式などの特別な場で和服を着たり、正月になると普段足を向けない神社やお寺に行って参拝したりしているのであり、現代のアイヌも、規模は非常に小さいにせよ（人口が和人より圧倒的に少ないのだから当然だが）、同じように特別な機会の時だけ伝統的な衣装を身につけ、先祖供養やアシリチェブノミ（新鮭迎え）などの儀礼に参加したりしているのだが、アイヌ文化のほうは消滅の危機に瀕していることになっており、日本文化は「変容」したということですまされる。

つまり、以下に説明するようないわゆる「アイヌ文化」と呼ばれるものは、その当時のことを記憶している人たちから、あるいはそれを伝承している人たちからの聞き取りなどによって再構築したものであって、同時代的な記録は極めて限られている。たとえば、「アイヌ文化」では毒矢を用いて獲物を獲っていたと説明するのが普通だが、私が1900年前後の生まれの人たちから聞き取りをしている時点では、すでに弓矢で狩りを行った体験のある人など稀であり、猟というのは銃を使って行うものであった。しかし、「アイヌ文化」の考察の基礎資料である伝承文学の中には銃での狩の様子などは出てこず、もっと前の時代の弓矢での猟が語られるのである。あるいは、地域にもよるが、馬と近代のアイヌの生活は密接に関係しており、私が話を聞いている人たちの世代では、女性で馬に乗れる人も多かったのだが、馬がアイヌ社会の中で一般的なものになっていくのは明治以降のことであり、伝承文学の中で後に説明する「カムイ」として馬が登場する話は非常に限られている。

1958年に東映で映画化された武田泰淳原作の『森と湖のまつり』（監督内田吐夢）は、道東を舞台に、当

時のアイヌの置かれた状況を描いたものだが、冒頭、アイヌの青年役である高倉健が馬に乗って草原を駆け抜けて登場するシーンから始まり、対立するアイヌの青年（三國連太郎）とライフル銃で決闘するシーンがクライマックスになっている。それだけ書いてしまうと、単なる荒唐無稽な話としか思えないかもしれないが、時代を考えれば、馬と銃という組み合わせは、弓矢とアイヌ文化の衣装という組み合わせよりは、よっぽどリアルだと言える。しかし、「アイヌ文化」について語る際にはそういうものについてはほとんど触れられないのである。

前置きが長くなったが、「アイヌ文化」に限らず、「〇〇文化」というのはすべからず、ある時点でのその時代の特徴的なものをピックアップして構築された、観念的・理念的なものであるということを念頭に置いていただきたいということである。実際にはみんながそのとおりに生活していたとは限らないし、時間的にも空間的にもさまざまな変容があったはずである。それはもちろん追求すべき事項なのだが、大づかみに話す場合にはそのところを無視せざるを得ない。そういう前提で、以下、「アイヌ文化」は「」を外して表示することにする。

アイヌ文化の成立

いわゆるアイヌ文化が成立したのは、13世紀頃だと言われている。それまで北海道に広がっていたのは擦文文化という文化で、それが5〜7世紀から9〜10世紀頃まで北海道オホーツク岸を中心に広がっていたオホーツク文化を吸収した上で、13世紀前後にアイヌ文化に変容したというのが、一般的な見方である。アイヌ文化を擦文文化と分かつ大きな違いとして、それまでの半地下式の堅穴住居から、地上に家を建てる「平地式」と呼ばれるやり方へ変わったということが挙げられる。それとともに、それまで使われていた竈が無くなり、炉を中心とする生活になった。

もうひとつの大きな変容は、土器の使用をやめてしまったことである。擦文文化やオホーツク文化という名称は、言うまでもなく擦文式土器、オホーツク式土器という土器の名前からきている。ところがアイヌ式土器というものは存在しない。その代わりに彼らが煮炊きをする調理具として使っていたのは鉄鍋であり、食器とし

て使っていたのは木器である。木器は刃物を使って加工する必要があり、その刃物は鉄製品である。したがって、アイヌ文化は鉄器によって成立した文化だと言える。しかし、アイヌ自身は鉄の生産を行った形跡がほとんど無く、彼らはそれを基本的に和人との取引によって入手していた。煮炊きをするための鉄鍋は一家に一個必要なはずであるし、マキリ「小刀」は男性でも女性でも必ず一丁は常に携帯していた。つまり、その需要をまかなうだけの、大量の鉄製品が和人社会から流れ込んだ結果、アイヌ文化が成立したことになる。

また漆器もアイヌ文化において重要な役割を果たしている。現在アイヌの家屋の展示を行っているような博物館に行けば、たいがい、土間から見て左の奥に、行器（ほかい）、鉢、折敷（おしき）、片口といった漆器類が、大量に整然と積み上げられているのを見ることができだろう。折敷の上には4つのお椀が並べられ、その上には秀麗な彫刻を施されたへら状のものが乗っているはずだ。これらはすべて祭具であり、宝物として大切にされてきたものである。

お椀はトッキと呼ばれ、お酒を入れるためのものであ

る。へら状のものはイクパスイまたはバスイと呼ばれ、トゥキに注がれた酒にその先端をひたし、カムイ(神)やカムイへの贈り物であるイナウ(木幣)に、その酒の滴をしたたらして捧げるためのものである。有名なイオマンテ(熊の霊送り)をはじめ、アイヌの伝統儀礼は、これらの漆器が無くては始まらない。そして、バスイを除いたこれらの漆器類は、すべて和人から手に入れたものである。さらに言えば、カムイ、トゥキ、パスイ、パッチ、オッチケといった言葉は、それぞれ日本語の「神」「杯」「箸」「鉢」「折敷」と歴史的に関係があると考えられており、これらの祭具は(バスイ以外)名称からして日本文化から入ってきたものであることは明白である。

縄文文化とアイヌ文化を結びつけて語る人がよくおり、狩猟・採集経済という点に共通性を見ているものと思われるが、私たちがアイヌ文化と言っているものは和人や周辺諸民族との交易によって形成されたのであって、アイヌを単なる狩猟採集民と見るのではなく、むしろ「交易の民」として見る見方のほうが、現在では普通である。テッサ・モリス・鈴木という歴史学者は、「交易の増加が日本とアイヌのあいだによりはつきりと仕切られた

分業を促進した。すなわち、アイヌの生活圏は漁撈と狩猟に特化し、日本は農業と金属加工に特化した」(モリス・鈴木2000:61)とまで言っている。要は、アイヌ文化のもうひとつの特徴である狩猟・採集経済そのものが、交易資源を得るために発展したものだといえる。

アイヌの世界観とカムイ

とはいえ、アイヌ文化が和人の文化とさまざまな点で異なることもまた確かであり、そのキーワードとなるのがカムイという言葉である。この言葉については前節で「神」と訳し、日本語と語源的に関係があると言いたが、日本語の「神」よりはずっと範囲の広い意味を持つ。まず、ほとんどの動物と植物はカムイの範疇に入る。和人文化でもキツネやヘビを「神のお使い」とするような思想はあったが、アイヌ文化においては、犬だろうと猫だろうと、スズメやカラスであろうと、それら一匹一匹、一羽一羽が等しくカムイであった。

また、和人文化でも御神木というものがあ、特定の

木に注連縄を張ったりして特別扱いをしているわけだが、アイヌにとっては細かろうと太かろうと、木はすべてカムイなのであり、草も人間の役に立つ限りはみんなカムイである。

たとえば、アイヌは狩りをするのに矢尻に毒を塗りこんで、獲物の心臓近くに打ち込むという猟法をとっていたが、その毒の主要成分としてトリカブトの根を使っていた。このトリカブトもまたカムイであり、しかもケレブノイエとケレプトゥルセという名を持つ姉妹ということになっている。ケレブノイエは「触ったものをよじる」、ケレプトゥルセは「触ったものが倒れる」というぶっそうな名前を持ったカムイで、物語の中ではこの二人が女性の姿となって、獲物——たとえばクマのカムイ——を人間の家に誘ったりする。もちろん、その誘いに乗れば、クマは死んでしまうのである。

カムイの本体は霊魂であり、それは人間の目には見えないが、人間と同じ姿をしているとされる。クマが狩で殺され、人間の手によって解体されると、霊魂は肉体から解放され、自分の頭の耳と耳の間（つまり頭の上）に座っていることになっている。それを家の中に運び入れ

て、上座に鎮座させる。家の中では炉に火が焚かれているが、この火もまたカムイであり、おばあさんだとされるが、この火もまたカムイであり、おばあさんだとされるが、この火もまたカムイであり、おばあさんだとされる。この火も特別な火というわけではない。どの家で焚かれている火もみなカムイなのであり、ガスコンロの火であろうとタバコの火であろうと、等しく拝礼の対象となる。そしてその火のカムイが、その家の主人になり代わってホスト役を務め、迎え入れたクマの魂とよもやま話をして過ごすのである。

このようにアイヌ文化においては、生物と無生物を問わず、人間をとりまくさまざまなものを、人間と同じような精神を持ったもの、霊魂の状態では人間と同じ姿を持つものと考えていた。それを総称してカムイと呼んでいるのである。しかもそれは動物や植物、火や水や雷といった、自然界に存在するものだけを指すわけではない。たとえば家のことをチセというが、チセカッケマツ「家の奥さん」と呼ぶこともある。日本語にしてしまうと一家の主婦のようなイメージになってしまうが、そうではなく、「家」Ⅱ「奥さん」なのである。

舟もまたカムイである。萱野茂氏の『ウエペケレ集大

成』という本に「桂の木の舟と、栓の木の舟の喧嘩」という物語が載っている。ある男が桂の木と栓の木で二艘の丸木舟を作ったが、桂の木の舟のほうが軽くて使いやすいで、そっちばかり使っていた。しかしある時、夜中に川べりで音がするので行ってみると、その二艘の舟が立ち上がって喧嘩をしている。驚いて逃げ帰ると、その晩夢に美しい女性が出てきて、自分は桂の木の舟で、栓の木の舟のほうは男性だが、桂の木のほうばかり使われることに嫉妬して、喧嘩になっているのだという。男は女神に言われたとおりに栓の木の舟を砕き、その舟を作った栓の木の切り株を根ごと掘り出して燃やすのだが、栓の木の復讐はそれでは終わらなかつた。

という面白い話なのだが、続きは同書を読んでもらうことにして、このように人間の手で作られられたものもカムイなので、儀礼の際には、普段煮炊きをする鍋やそれを下げている炉鉤、柄杓などの類にも、女性たちがパスイでお酒を捧げる。また、お汁を飲むためのお椀などにひびが入って使えなくなった場合は、屋外の然るべきところに持って行って、酒やイナウ「木幣」を添え、感謝の祈りを唱えて、その魂を本来のカムイの世界へ送り

返す。

カムイは、人間世界とは別のところにあるカムイの世界で霊魂の状態で暮らしているが、いろいろな目的のために、人間の目に見えるように肉体をまとして人間世界にやってくる。それが獣や鳥や道具類の姿なのであり、彼らは人間世界で役目を果たしたら、肉体を置いて霊魂の状態でカムイの世界に戻っていくのだと考えられている。アイヌ文化の基本的な思想は、そのカムイとアイヌがひとつの社会共同体を成しているということであり、その共同体がうまく運営されるためには、両者の関係が円滑でなければならぬ。そのために、アイヌはカムイに加護を依頼し、感謝の祈りを捧げ、逆にカムイが信義に反する行為を行った場合——たとえばクマが人を襲うとか、川で人がおぼれるとか——には、抗議を行ったり、お祈りも供物を捧げることもしないぞと言って脅したりする。便宜上「神」と訳すことも多いが、日本語の「神様」とはかなり違う概念であることがわかるだろう。

そこで、かつて私はカムイを「自然」と訳してみたことがある。アイヌ「人間」とカムイ「自然」との共同体

「人間と自然との共生」ということで、一般のアイヌ文化のイメージにもフィットする訳語だろうと思ったのだが、「自然」では家や舟やお椀まで含めるのは困難である。というわけで、アイヌ文化の紹介本である拙著『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』では、「環境」という言葉に置き換えてみた。「人間と環境が共生」する社会——最適とまでは言えないが、このほうがアイヌ文化を表現するには「自然」よりふさわしいように思われる。

「自然との共生」という言い回しは耳には心地良いかもしれないが、ミスリーディングな表現にもなりかねない。ひとつには、アイヌ文化は「自然との共生」を指す→現代の「文明」的な生活には適合しない↓だから必然的に消滅の道をたどったのだ、というような、歴史的な経過を無視した発想を招いてしまうからだ。実際には、アイヌ文化が和人の文化に置き換えられていったのは、1872年に公布された「地所規則」「北海道土地売買規則」や、1889年の鹿猟の禁止、1898年の自家用の鮭漁の禁止といった法令によって、生活基盤を根こそぎ奪われていき、経済的な自立性を保つことができ

なくなることが一番大きい。そして、そのような状況に安んじることになったのは、1669年のシャクシャイン戦争や、1789年のクナシリ・メナシ蜂起などの和人との戦いにおける敗北で、すでに明治期に入る以前に、政治的に和人の支配下に置かれる状況が作られていたからに他ならず、思想や世界観の問題ではない。このような和人からの強制的な生活の変貌無しに、アイヌの世界観が現代化していったのならば、車やテレビやパソコンも当然カムイとしてとらえられていただろうし、それらのカムイとの円滑な関係が模索されてきたに違いない。

「自然との共生」という表現のミスリーディングな点の第2は、この「共生」という言葉にある。このように言うと、つい「動物愛護」とか、「木の枝を折ったり、野草を採取したりしないようにしよう」といった発想と結びつけてしまうのではないだろうか？ アイヌはこれまで述べたような世界観を狩猟採集生活の中で築いてきた。かつての生活においては、当然シカやクマといった動物たちを殺して解体し、日々の糧としていたのだし、木を切り倒して家や舟を作っていた。莫塵を織るために

は相当量のガマを刈り取るし、儀礼の際にはヤナギの木を何十本も切ってイナウを削る。現代の日本人(当然アイヌも含む)の大半は、動物を解体しているところなど見たことがないので、その現場に居合わせるだけで、「自然との共生」などという言葉を引き込んでしまうかもしれない。

しかし、他の生命を奪わずに生きている人間などひとりもない。それを見ないふりをするより、それをしっかり意識するほうが重要であり、狩猟採集という生業を通じて、その直接的な体験の中で築かれてきたアイヌの世界観は、非常に現代的な意味を持つ。それは、牛・豚・鶏などを日々消費する中で、それらの命についてどう考えるかということであり、またそれらの動物たちを私たちが食べられるように屠畜してくれている人たちのことをどう考えるかということでもある。あるいは、多くの開発途上国で焼き畑を作るために森を切り払っていることとか、日本で年間2759万トンの食品が廃棄されていること(消費者庁ホームページより)とかも、アイヌ「人間」とカムイ「環境」の関係の改善を目指して解決すべき事態としてとらえられるはずのことだろう。今

はやりの言葉で言い換えれば、「持続可能な環境の利用」という表現が、まさしくアイヌ文化におけるアイヌとカムイの関係を表わすものだと言うことができるのではないだろうか。

アイヌ語の現在

アイヌ文化と和人の文化を明確に分かつものは言語であると言いつつ切ってしまう。東北地方の北部に色濃く広がるアイヌ語地名を考えると、アイヌ語は日本語と地続きに接していた唯一の言語であり、かつ日本列島で話されてきたふたつの言語のひとつだと言えるが、系統的に言えば、アイヌ語と日本語を関係づけるのは極めて困難である。つまり、同じひとつの言葉(祖語)から分かれてできた言語(姉妹語)である可能性は非常に低い。関係があると主張する人たちはいるが、納得のできるような論証をした人はひとりもない。

長いこと接触関係にあり、交易もしていたのであるから、当然単語のやりとりはいろいろあり、アイヌ語から日本語、日本語からアイヌ語への借用語ももちろんある。

しかし、フランス語から英語への借用語や、中国語から日本語への借用語に比べたら、むしろ意外なくらい少ないと言ったほうがよい。中国語から日本語への借用語というのは、もちろん漢語のことだが、漢語および漢語起源の単語(早い話が音読みの単語)を現代の日本語から全部抜いてしまうと、日常会話からして成り立たなくなる。日本(にほん、にっぽん)自体が音読みなのだから、自分の国の名前すら言えなくなるのである。それに対して、アイヌ語から日本語起源の要素を除いても、和人社会にある物資の名前が言えなくなるだけのことである。

アイヌ語は日本語と文法的に似ているという人もいるが、それはたいいてい語順のことを言っているにすぎない。たしかに、シララ カ タ オニ ペライ コロ アン「岩・の上・で・鬼が・釣りをし・て・いた」などという文を見ると、アイヌ語の単語を逐語訳していけば自然に日本語になってしまうので、文法的に日本語と近いと思うかもしれない。

しかし、言語類型論という分野のひとつの成果である、WALS Online (<https://wals.info/>)とどう誰でもアクセスできるサイトが、Feature 81A: Order of Subject, Object

and Verbという項目を見てほしい。ここでは世界中の1377の言語の、主語、目的語、動詞の基本的な並び順が図示されているが、そのうち565言語、すなわち41%が日本語と同じ語順であることがわかる。英語や中国語のように主語・動詞・目的語の順に並ぶ言語は488語35%なので、日本語もアイヌ語も世界でもっともありふれた語順の言語であり、同じだからと言って、特別な関係があるということにはならないのがわかる。

ここではこれ以上詳しく説明する余裕がないが、とにかく文法的に日本語と似ているのはそこだけで、後は大きく異なる。人称の義務的な表示や、形容詞と動詞の区別が無いというようなこともあるが、それに加えて、アイヌ語は世界の言語の中でも、動詞数(verb number)とか充当(application)とか抱合(incorporation)といった、比較的レアな文法現象をまとめて持っている言語で、世界中によくある特徴の集合体のような日本語とは大きく違うのである。

アイヌ文化は100年以上前から消滅すると言われ続けてきた。しかし、最初に書いたように、風俗や習慣ということ言えば、日本文化もまた変容し、古いもの

は消え続けているのである。それでも日本文化が消滅の危機にあるという認識が一般に無いのは、日本語が存続しているということが大きいだろう。もちろん日本語もまた変容しているのであるが、他の言語に置き換わったりはしていない。おおまかに言って、日本人とは日本語を母語としている人たちだと言ってしまうても——もちろんそこに入らない人たちも大勢いるだろうが——一般の認識には合致しているだろう。

しかしそれは世界全体で見たら、あまり普通のことではない。早い話が英語を話しているからアメリカ人やイギリス人だということにも、スペイン語を話しているからスペイン人だということにもならないし、逆にインドの上流層には英語しか話せないインド人という人たちも大勢いる。国家と民族と言語というのはイコールで結べないというほうが、世界の常識なのである。そして、今、アイヌというアイデンティティを持っている人たちの大半は、アイヌ語を話すことができない。

かつてはアイヌ語を母語とする人々アイヌと言ってもよい時代があった。それが本稿の最初で述べた「アイヌ文化」が存続していた時代である。拙著『アイヌ文化

で読み解く「ゴールデンカムイ』でも触れたことだが、野田サトル氏の「ゴールデンカムイ」という漫画のヒロインであるアイヌの少女アシリバは、1905年当時で13歳くらいの設定であり、つまり1890年代初めあたりの生まれということになる。実は、現在私たちがアイヌ語の資料として利用している記録のかなりの部分を、この前後の生まれの人たちが占めている。知里幸恵の『アイヌ神謡集』は、アイヌ自身によって初めてアイヌ語で書かれた本だが、彼女は1903年生まれで、アシリバより10歳くらい年下ということになる。つまり、「ゴールデンカムイ」の舞台となっている日露戦争終結時あたりでは、地域による違いはあるだろうが、ほとんどのアイヌがアイヌ語を母語としていたと考えてよいだろう。

それが先に述べたような、アイヌ社会の経済的生活基盤の破壊によって、急激に崩されていった。私がアイヌ語を教わった1900年前後生まれの人たちは、様に親の世代から、「お前たちはアイヌ語を覚えなくてよい」と言われて育ったという。つまり、日本語が話せないと良い仕事に就くことができなくて、生活に困ること

になるから、アイヌ語より日本語を覚えるという親心である。これはもちろん、現代日本社会における強迫観念的な英語学習と同じことである。ただ、それにも関わらず日本人の大半が、いつこうに英語ができないのは、英語ができないと飯が食えないというような切迫した状況にある人があまりいないからに他ならない。日本経済が崩壊して、日本にいてもろくな仕事にありつけないというようなことになったら、英語に堪能な人が爆発的に増えるだろう。

アイヌ語の母語話者がどの世代までいたかということはいささか難しいのだが、知られている人の範囲では、1926年生まれの萱野茂氏あたりが一番若い世代なのではなからうか。そして、現在母語話者と言えるような人はもういないと言ってよい。言語学上の一般的な定義から言えば、アイヌ語は危機言語というより、すでに「死語」である。

しかし、それは母語話者を基準にした定義上の問題で、言葉というのは使えば生きていくし、使わなければ消えていくのである。母語話者でなくても使う人たちが出てくれば、言葉はいつまでも存続する。そして、そういう

動きは出てきている。この2020年の4月に、北海道白老町に民族共生象徴空間（ウポポイ）とその中核施設として国立アイヌ民族博物館が開設される。そこでは、すべての展示・案内が基本的にアイヌ語で表示されることになっている。これは私自身が関わっているので、あまり自画自賛的なことは言いたくないのだが、ウポポイの内部の人も外部の人も含め、非常に大勢の人間が関わって、このアイヌ語表示の文言を検討してきた。アイヌ語に関してこれだけのエネルギーが注がれたことは、これまであまり例がないだろうと思われる。

それ以上に重要なことは、マスコミでも今のところあまり話題にされていないが、これまでアイヌ語を熱心に学んできて、相当の実力を持っている10名以上のアイヌの若者たちが、このウポポイの職員として採用されているということである。言葉を残し伝える力の源は施設の立派さや、世間の注目を集めるイベントなどではない。人間である。10年後に彼らが中核的なスタッフになった時に、ここがアイヌ語の未来を担うような施設になっているかどうか、それが今一番の楽しみである。

参考文献

- 萱野茂(1974)『ウエペケレ集大成』アルドオ…(2005)新訂復刻『ウエペケレ集大成』日本伝統文化振興財団
- 知里幸恵(1923)『アイヌ神謡集』郷土研究社…(1978)岩波文庫版
- 中川裕(2019)『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社新書
- モリスル鈴木、テッサ(2000)『辺境から眺める』(大川正彦訳)みすず書房

中川裕(なかがわひろし)

東京大学大学院博士課程中退。アイヌ語学専攻。千葉大学文学部教授。

主要著書…『アイヌ語十歳方言辞典』(草風館)、『CDエクспレス アイヌ語』(白水社。中本ムツ子との共著)、『アイヌの物語世界』(平凡社ライブラリー)、『語り合うことばの力——カムイたちと生きる世界』(岩波書店)、『カムイユカラを聞いてアイヌ語を学ぶ』(白水社。中本ムツ子との共著)。

監修…『ニューエクスプレス・スペシャル 日本語の隣人たち』『ニューエクスプレス アイヌ語』(以上、白水社)。

15分で読むアイヌ文化・ブックガイド

刊行年()内は初版刊行時

アイヌ文化(全般)

出版社	ISBN(978)	書名	著者名	本体価格	刊行
クルーズ出版事業部	9784905756644	知里真志保の「アイヌ文学」	知里真志保	1200	2012(1955)
第一法規	9784474060203	アイヌ民族誌	アイヌ文化保存対策協議会編	品切	1969
平凡社		知里真志保著作集全4巻、別巻2	知里真志保	品切	1973-76
法政大学出版局		コタン生物記全3巻	更科源蔵・更科光	品切	1976-77
岩波新書		アイヌの文学	久保寺逸彦	品切	1977
すずさわ書店	9784795404014	アイヌの民具	萱野茂	10000	1978
みやま書房		更科源蔵アイヌ関係著作集全10巻	更科源蔵	品切	1981-84
小学館ライブラリー	9784094600674	アイヌ、神々と生きる人々	藤村久和	品切	1995(1985)
三省堂		金田一京助全集 全15巻	金田一京助	品切	1992-93
ちくま学芸文庫	9784480098139	アイヌ歳時記——二風谷のくらしと心	萱野茂	1000	2017(2000)
岩波書店	9784000257909	語り合うことばの力——カムイたちと生きる世界	中川裕	2300	2010

アイヌ文化(入門)

出版社	ISBN(978)	書名	著者名	本体価格	刊行
草風館	9784883232017	アイヌ文化の基礎知識(増補・改訂)	アイヌ民族博物監修/児島恭子増補・改訂版監修	1600	1993:増補・改訂版2018
平凡社ライブラリー	9784582768992	アイヌの物語世界(改訂版)	中川裕	1400	1997:改訂版2020
集英社新書	9784087210729	アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」	中川裕	900	2019
講談社現代新書	9784062883047	アイヌ学入門	瀬川拓郎	840	2015
三栄書房	9784779631511	サンエイムック時空旅人別冊 北の大地、そこに生きる人々の歴史と文化、漫画「ゴールデンカムイ」…今こそ知りたいアイヌ		品切	2017
山川出版社	9784634591035	いま学ぶ アイヌ民族の歴史	加藤博文・若園雄志郎編	2000	2018
宝島社新書	9784800293824	1時間でわかるアイヌの文化と歴史	瀬川拓郎監修	1200	2019

(次ページに続く)

アイヌ文学テキスト

出版社	ISBN (978)	書名	著者名	本体価格	刊行
岩波文庫	9784003208014	アイヌ神謡集	知里幸恵編訳	580	1978 (1923)
岩波文庫	9784003208113	アイヌ民譚集	知里真志保編訳	720	1981 (1937)
三省堂		アイヌ叙事詩ユーカラ集全9巻	金成まつ筆録／金田一京助訳註	品切	1959-75 (1993 復刻)
岩波書店	9784000000130	アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究	久保寺逸彦	品切	1977
ヤマケイ文庫	9784635048781	アイヌと神々の物語—— 炉端で聞いたウウエベケレ (萱野茂『カムイユカラと昔話』1988、 小学館を改題)	萱野茂	1100	2020
平凡社ライブラリー	9784582760200	アイヌの昔話——ひとつぶのサッチボロ	萱野茂	874	1993
ビクターエンタテインメント	9784894044524	萱野茂のアイヌ神話集成全10巻	萱野茂	品切	1998

アイヌ語

出版社	ISBN (978)	書名	著者名	本体価格	刊行
北海道出版企画センター版	9784832890022	アイヌ語入門——とくに地名研究者のために	知里真志保	1214	1985
草風館	(1) 9784883230822 (2) 9784883230839 (3) 9784883230846 (4) 9784883230853	山田秀三著作集 アイヌ語地名の研究 全4巻	山田秀三	各巻 5825	1995 (1982-83)
三省堂	9784385152073	言語学大辞典セレクション 日本列島の言語	亀井孝他編著	品切	1997
大学書林	9784475018838	アイヌ語文法の基礎	佐藤知己	品切	2008
白水社	9784560086391	ニューエクスプレス アイヌ語	中川裕	3000	2013
白水社	9784560086803	カムイユカラを聞いてアイヌ語を学ぶ	中川裕・中本ムツ子	3800	2014

—書店現場から—

人文書フェアを終えて

亥角 理絵（金高堂書店本店）

2019年5月、人文会発行の「高校生のためのブックガイド2019」を携えてのご訪問だった創元社・水口さんは、今思えば「特別な何か」をスタートさせる気満々で高知入りされていたのかもしれませんが。

「書籍離れは中高校生だけではない。勉強していい大学に入った大学生でさえ、自分の論文を、いわゆる《コピー》で済ませようとする時代。つまり、そもそも学術的論文を読む力がなくなってきたのでは」。そんな話をし、そういう学生たちに文章を読むこと、読書環境を整え、読む力を養ってもらうためには、どうすればいいのか。人文書コーナーにブックガイドを《ご自由どうぞ》と置いてみる程度のアピールでは反応が期待できないことは、水口さんも、我々も想像がつかまりました。

そもそも、普段書店に来ない人、ともすれば書店をよく利用する人や、書店で働くアルバイトさんでさえも、人文書たるや何か知らない人は沢山いるはず。さてはて、どうやって人文書をアピールすべきか……。

その時、水口さんが一言おっしゃいました。



写真1 その1ページが君の人生を変える

「人文書なんて、所詮趣味の本
ですからね。」

なるほど。そういえばそうだ！
哲学にしろ、歴史にしろ、自分の
興味のある本が目の前にあれば、
気軽に手に取っていただくとチャン
スになるわけです。ならば目の前
に持って行きましょう！

そこからは水口さんと打ち合わ
せを進め、

●フェアの規模

●展開期間

●告知方法

を決めていきました。その後社内
でチームを作り、

◎中四国初の最大規模

◎人が動く時期、夏休みからの
スタート

◎朝倉ブックセンターと本店の
2店舗で前期・後期とし、スライ
ドして行う

◎外商部を利用して、教育関係
へのチラシ配布・SNS発信・新
聞広告・テレビラジオCMを行
う

と決定し、いよいよ《中四国初 総数1000冊以上 人文書フェア》の準備がスタートしました！

グループ全体で取り組むことを意識するために、まずはスタッフ間でこのフェアのキャッチフレーズと、オリジナルキャラクターを募集しました。学生を意識したフェアですので、できるだけカジュアルに、分かりやすいものを目指しました。アルバイトさんや事務も含め70以上のキャッチフレーズが集まり、イメージキャラクターは人間や動物など、「皆こんな才能があったのか!」と思わせる力作が候補に挙がりました。そして決定したキャッチフレーズは「その1ペーじが君の人生を変える」、オリジナルキャラクターは、文鳥をモチーフとした《じんぶんちょう》。それらを使ってCM制作や、パネル・ポップ作成を進めていきました。

お客様を「あっ」と言わせるフェアにするためには、県内どここの書店もやったことのないボリューム感と、ラインナップを取り揃える必要がありました。

商品構成は、水口さんにほぼ《丸投げ》状態で、こちらは外商部スタッフが、本店お隣の県市合築図書館、オーテピア高知図書館の両館長はじめ教育施設の方々に今回の主旨説明をし、その上でオススメの人文書をご紹介いただくようお願いして回りました。

フェアの中で歴史、哲学、高知県関連、中高生にも読みやすいもの等ジャンルを括り、売場作りのイ



写真2 オリジナルキャラクター
のじんぶんちょう



写真3 オススメの人文書

をフルに使用し展開しました。開催初日にこのフェアをお目当てにご来店のお客様は、なんと4万円程ご購入して帰られました。その方は、その後も足をお運びいただいたそうです。

朝倉店スタッフは幅広いお客様に楽しんでいただくために、いろいろな企画も考えました。中でも《じんぶんちょうくじ》は、一冊お買い上げにつき一回くじが引けるといいうもので、各版元様に提供いただいたクリアファイル、ボールペン、図書カードなどがその場で当たるくじ。ほとんどのお客様は出版社がこのようなノベルティを作っていることをご存じなく、このことがレジでのコミュニケーションに大いに役立ちました。

外商部では、セレクトした約130冊を携えて高校を中心に巡回を行いました。ここでは店舗での売上順位と違い、時事問題を取り上げた話題性のある書籍に反応が多かったようです。

メージが出来始めました。

夏休み真っ只中の八月三日、朝倉ブックセンターにて「人文書フェア・前期」がスタートです。朝倉ブックセンターは、高知市中心部より車で15分ほどに位置し、240坪のワンフロアの店舗で、今回のフェアでは店の一等地の中央通路



写真4 朝倉店でのフェアの様子

夏休みが終わり、九月の連休が明けると本店での後期のスタートです。

本店は、高知市のど真ん中。オフィス街や県庁・市役所、近隣に中学校・高校もある商店街の中にあるいわゆる町の本屋さんです。約220坪のワンフロアで、学生さんやお勤めの方の普段使いが多い店舗です。一番の特徴としては、入口すぐの大きいフェア台。色遣いやディスプレイを意識している、通常「見せる」ことをイメージして作り上げるスペースですが、今回そのメインのフェア台にて《人文書フェア》を展開しました。朝倉ブックセンターより移動してきたその物量の多さに戸惑いながら、とにかく全点陳列することを優先し、コーナー作りをしました。

フェア開始後ご来店のお客様からは、「これだけ並べば迫力ですね〜!」「ここにこれだけの量が載るもんなんですね〜!」と口々におっしゃいました。それはお客様も同じ



写真5 本店でのフェアの様子

のようで、時間をかけてフェア台の周りを蟹歩きで、ゆっくり・たっぷり・しっかりとご覧になる方が多かったのもこのフェアの特徴でした。

1000冊のラインナップの中には、複数冊仕入れたものがあつたので、それらは平積みや面陳展開をしました。例えば、定番の『夜と霧（新版）』（みすず書房）や、『愛するとうこと（新訳版）』（紀伊國屋書店）が両店舗で売上上位に入ったのは、やはりPOPを付けて平積みしていたか

らだと思いません。

日々の補充は、各店とも毎週月曜日に窓口の水口さんに売上データを送り、これまた『丸投げ』し、ご心配いただき潤沢に行うことが出来ました。何せ18社の版元さんへの注文です。水口さんに一本化していただいたおかげで本当に助かりました。このスムーズな補充注文のおかげで店舗の売上目標を大きく上回ることができました。

お客様の層としては、朝倉ブックセンター、本店ともに10代からご年配の方まで、幅広い層に楽しんでいただけたようです。フェアについてお話したお客様の中には、「ぎっちり（土佐弁で頻

繁に、という意味)ここへ来ゆうけんども、こんな本があるが知らざったよ」というようなお声も多かったです。言い換えると、当店をご利用のお客様でも常設の人文書コーナーに辿り着いてないことになります。もしくは、《新しい本との出会い》があったとも言えるのかもしれませんが。

思い返せば、元々のコンセプト、「学生たちの読書力の向上を図る」という意味での結果は出せなかったかもしれない。しかし、今回のフェアのような形で、多くの方に人文書を認知していただけたと実感しています。

最後になりましたが、今回のフェアをご提案くださった創元社・水口さん。最初から最後までおんぶに抱っこですみませんでした。水口さんがいろいろなアドバイスをくださったおかげで、良い結果が出せました。そして、開催にあたってご協力いただきました人文会の皆様。勉強会や意見交換会、直接各版元様とお話できたことは本当に貴重でした。御礼申し上げます。

年が明け、1月末にご来店の水口さんと私は、「さあ、今年はどうやって人文書フェア、やる？」と打ち合わせをスタートしました。

ということ、人文会の皆様、第2回もどうぞよろしくお願い申し上げます！

課題解決型図書館 オートピア高知図書館の取組み

一 リストラ目的では合衆・共同運営は成功しない

「オートピア高知図書館」は、高知県立図書館と高知市立市民図書館本館とを合築し、両館で共同運営している図書館である。二〇一八(平成三十)年七月二十四日に、複合施設「オートピア」内の、「オートピア高知声と点字の図書館」と「高知みらい科学館」とともに開館した。日本の図書館の歴史で、一部事務組合(地方自治法で定められた制度で、複数の自治体の一部の事務を共同処理する組合)による公立図書館は存在するが、広域的な自治体である県と基礎的な自治体である市の図書館の合築や共同運営は初めてである(その後、長崎県立図書館と大村市立図書館と

の合衆・共同運営による「ミライオン図書館」が開館している)。

山重 壮一(オートピア高知図書館 専門企画員)

地方自治法では、市町村は基礎的な地方公共団体として、都道府県が処理する事務以外の事務を一般的に行うとされている。地域における事務は市町村がまず行う。都道府県は、市町村を包括する広域の地方公共団体として、(一)広域にわたるもの、(二)市町村に関する連絡調整に関するもの、(三)規模・性質において一般の市町村が処理するのは適当でないと思われるものを行うこととされている(地方自治法第二条第五項)。

これを、市町村立図書館と都道府県立図書館の役割分担に当てはめて考えると、都道府県立図書館は、市町村立図書館が、価格や専門性の度合い、また、利用の見込みから収集しないような図書・雑誌・新聞等も収集し、

市町村立図書館から希望があった場合は協力貸出しを行い、豊富な蔵書を直接来館者の調査研究に供するということになる。つまり、住民のニーズの高い図書や雑誌は、各市町村の図書館が収集し、高いニーズがあるわけではないが、県民が調査研究するときのために、都道府県全体として最低一冊は持っておきたいものから収集していくのが都道府県立図書館ということになる。

さて、このように考えると、県と市の合築・共同運営については、二つの対立する考え方が成り立ちうる。このように機能が異なる二つの図書館を合築・共同運営することは、双方が機能不全に陥る危険性があるという考え方と、このように異なる機能を相互補完して共通する部分を共同で行えば、より効率的・効果的であるという考え方である。

オーテピア高知図書館についても、この点について議論されたが、結果的に、条件付きで後者を選択したということになる。つまり、双方が相手のパワーを期待して、自分の方が人や資料といった資源の投入が不十分であると、双方とも機能不全に陥ってしまうので、一定水準以上は、運営のための資源を双方とも投入し、水準以上の

図書館、むしろ、単独では実現できない、質・量とも充実した図書館の蔵書とサービスを提供しようというものである。

このような前提でスタートしているので、オーテピア高知図書館は、単なるリストラを目的とした合築を行ったのではない。もちろん、それぞれの蔵書を共通の書架に配列するので、無駄な複本を購入しないですむといったメリットは当然あるが、蔵書の全体の規模そのものを縮小しようとするものではない。また、無駄な複本は購入しないが、必要な複本までそろえないという意味ではない。

このことを裏返していくと、単なるリストラ目的では「合築」は有効な手段ではない。合築して、蔵書が貧弱になるだけなら、それは、地域の文化資源が貧困になることを意味する。また、人員削減は、利用が少ない場合のみに有効である。しかし、利用されない公の施設に大きな意味はない。合築・共同運営で成功するためには、地域の文化資源を豊かにするという明確な意思が必要である。

そのようなこともあって、オーテピア高知図書館は、

最大収容限界二〇五万冊（開館時所蔵約一四五万冊）、延べ床面積一万八〇〇〇平米弱の大規模な図書館としてスタートした。

二 オータピア高知図書館のコンセプト

高知県知事と高知市長とで持たれている県市連携会議の中で、中心市街地にある追手前小学校移転統合後の敷地の活用について、合築の図書館の可能性が示され、県市の職員によるワーキング・グループにより二〇一〇（平成二十二年）八月に報告書が出された。その報告書を参考に合築の場合も想定し、基本構想を県市で策定することとなり、「新図書館基本構想検討委員会」が発足、二〇一一（平成二十三年）三月に報告書をまとめ、同年四月に県・市各教育委員会として「新図書館基本構想」を策定した。

ただし、県と市の図書館の合築については、双方が機能不全に陥る危険性もあることから、新聞でも大きく報道され、委員会には多くの傍聴者が詰めかけた。委員会の上でも、合築そのものに対する疑問も表明され、最

終的には、県市の図書館の従前の機能をそこなわせず、それをさらに発展させ、サービスを向上させる条件付きでの合築がおおむね認められ、それを行政があらためて構想として策定した。このような経過があるので、オータピア高知図書館は、かなり踏み込んだ構想を描いている。また、この構想実現のために、図書館の資料費についても、委員から、県立図書館がその機能を果たすためには、一億円の年間資料費が必要であるという発言がなされ、委員会席上において、新図書館の資料費は一億円を目指すという回答が県教育長からあった。この比較的豊富な資料費の裏付けによって、オータピア高知図書館は、基本構想、基本計画、建築設計、サービス計画を定めていくことができた。

「新図書館（高知県立図書館、高知市民図書館本館）基本構想」では、新図書館が目指す図書館像として、（一）県民・市民の資料要求に応え、課題解決のサポートができる図書館、（二）情報提供機関として地域を支える図書館、（三）セーフティネットの役割を果たす図書館、（四）進化型図書館、（五）図書館利用に障害のある利用者に配慮した図書館の五つを挙げている。この構想に基

づいて二〇一一（平成二十三）年七月に策定された「新図書館等複合施設整備基本計画」（高知県・高知県教育委員会、高知市・高知市教育委員会）でも、五つのコンセプトとされ、繰り返し、記述された。

基本計画は、設計者選定のプロポーザルを円滑に行うために、基本構想をより建築施設の設計に結びつけやすいように策定したもので、基本構想と基本計画とで一体的に考えて、図書館の事業戦略的な位置づけも持っている。

なお、二〇一七（平成二十九）年一月に「オーテピア高知図書館サービス計画」（平成二十九年度～平成三十三年度）を高知県・高知市として定めているが、こちらは、基本計画に対する詳細計画に当たるもので、戦術レベルの計画である。従って、サービス計画に述べられていることは、戦略目標を達成するためには、臨機応変に変更すべきものであり、必ずその通り実施しなければならないというものではない。しかし、具体的な指針がないと、組織としても行動しにくいので定めたものである。また、時限を設けているので、実施状況を見た上で、必要な見直しも行い、次期のサービス計画やその他の計画に結び

つけるものである。

以下、オーテピア高知図書館が目指す図書館像（コンセプト）のそれぞれについて説明する。

三 県民・市民の資料要求に応え、

課題解決のサポートができる図書館

高知市立市民図書館は日本の公共図書館のモデルとなり、その精神は、日本図書館協会から出版された『市民の図書館 公共図書館振興プロジェクト報告』（一九六八年、出版は一九六九年）、『中小都市における公共図書館の運営 中小公共図書館運営基準委員会報告』（一九六三年）にも反映された。

簡潔にいうと、（一）貸出しの重視、（二）全域サービス、（三）児童サービスに重点的に資源を投入し成果を挙げようというものである。これに対し、課題解決を支援する図書館ということは、近年になって急にいわれてきたことのように捉える向きもあるが、日本に限らず、アメリカなどでも、昔から繰り返されてきた発想である。だから、基本的には、前述の『市民の図書館』や『中小

都市における公共図書館の運営」の考え方を否定するものではない。

「課題解決」と言ったときの「課題」には、個人レベルと集団レベルとがある。個人レベルの課題解決の支援とは、具体的には、「親の介護を在宅で行うべきか、施設に入れるべきか、また、自分は介護休暇を取得すべきか、どのような支援制度が活用できるのか、また、ボランティアやNPOによるサービスは存在するのか」といったような情報を得たいときに、図書館が関連する本や雑誌記事・論文、データベースの情報、さらに、パンフレット等に至るまで提供し、司書もその情報・資料の探し方のアドバイスや文献案内をするということである。集団レベルの課題解決の支援とは、例えば、「会社で、いわゆる働き方改革のプランを立てなければならないことになったが、具体的に効果のあるものを考えたい」といったときに、資料・情報の提供も行いが、そのディスカッションのための場も一定、提供するというものである。図書館内に、ディスカッションができ、インターネットも常時使える小部屋を用意し、ディスカッションの過程で出てきたアイディアを検証したり、さらに、発

展させる資料・情報をすぐに探すことができたりする(司書へのレファレンスによる活用も含め)ということが一例として考えられる。

このため、オーテピア高知図書館では、開架フロア内に「グループ室」を五室設置し、館内で無料で使えるWiFi環境も提供し、資料・情報を活用した創造的・生産的なディスカッションが可能なスペースを提供している。

高知県は県政課題(基本政策)として、(一)経済の活性化——産業振興計画の推進、(二)日本一の健康長寿県づくり、(三)教育の充実と子育て支援、(四)南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化、(五)インフラの充実と有効活用の五つを挙げているが、図書館サービス(資料の貸出し・閲覧やレファレンス・サービス)としてこの解決を支援できることもある。まずは、たくさん関係する図書・雑誌・新聞・データベースを提供することである。このために、資料費は一億円まで増額した。

特に、経済の活性化と健康長寿県の実現に関しては、オーテピア高知図書館三階の大半の部分を使って、それぞれ、およそ六万〜七万冊規模の開架スペース「ピ

ビジネス・科学・産業・農業スペース」と「健康・安心・防災スペース」を用意するとともに、関係する調べものの案内をするレファレンス・デスクである「ビジネス支援デスク」と「健康・安心・防災情報デスク」を設置した。このスペースには、図書だけでなく、この分野に関連する雑誌や配布用のパンフレットも置いてある。また、二十四種類のデータベースも利用できるようにしているが、新聞記事や百科事典等の一般的なものばかりでなく、医療関係の「医中誌Web」、「最新看護索引Web」、市場情報が調べられる「マーケティング情報パック(MPack)」、「市場情報評価ナビ(MieNa)」や、企業情報の「CD・Eyes 50」、農業情報の「ルーラル電子図書館」、機械工業を中心とした電子書籍を閲覧できる「BIコモンズ電子ライブラリ」も提供している(利用は印刷を除き無料)。

四 情報提供機関として地域を支える図書館

高知県の図書館の最後の砦たる高知県立図書館の資料費が貧弱では、高知県の知的資源そのものが貧弱である

ということになってしまふ。また、他県と比べ、圧倒的にアクセスできる情報量が少ないということになってしまふ。他県の図書館や国会図書館から借用すればよいという考えもあるが、図書館間の貸出しは、県立図書館の県内市町村立図書館向け協力貸出しを除き、ほぼ発行後一年程度の新刊を貸すことはなく、また、資料費の非常に多い図書館は、他から集中して依頼されて自分の業務ができないことから、相互貸借を受付けていないことがある。また、国会図書館は、保存が大きな役割なので、積極的にどんどん貸出す図書館ではない。また、借出しでも、借りた図書館の館内閲覧のみである。基本的には、図書館の相互協力は県単位で行われることが前提となっているので、県全体で貧弱であると、それは、直ちに、図書館サービスが貧弱であるという事態に陥る。

これが、県立図書館として多額の資料費を確保しなければならぬ理由である。

地方創生に産業振興は必須だが、現在、世界市場で勝負できる産業は知的付加価値の高い産業で、当然、その前提として、豊富な知的資源とその活用能力のある人材(人材)が求められる。図書館の問題は、もちろん、文化

の問題でもあるが、喫緊のところでは産業の基礎力の問題である。

なお、電子書籍の時代に紙の本の大型図書館は要らないという意見もあった。ただ、現在は、紙の本は出ていても電子書籍は出ていないというものも、相変わらず大量にあるし、一方、電子書籍のみというものは、思いのほかに少ない。また、図書館で購入する場合は、紙の本よりずっと高いというデメリットもある。しかし、それでも、高知県立図書館として、電子書籍サービスにも取組んでおり、「高知県電子図書館」というネーミングで提供している。このサービスを受けることのできる条件は、オーテピア高知図書館・高知市立市民図書館分館分室共通利用カードを持っていて、高知県内に在住か通勤か在学习であることとなっているが、将来的には、図書館コンソーシアムのようなものもあってよいという思いから「高知県電子図書館」とネーミングしている。特にリアルな図書館の存在しない地域の人の利用を期待しているが、このことによって、リアルな図書館の設置にブレーキがかかってしまうかもしれないこと、そのような地域がたいてい高齢化の進んだ中山間地域で電子メディア

アになじみがない人も少なくないので、結局、電子書籍サービスがあまり利用されない懸念もある。

そもそも、電子書籍サービスで提供しているものが、中山間地域のニーズに合っているのかという問題もある。中山間地域のニーズとは、もともと図書館のニーズが顕在化していない地域なので、具体的に述べるのは難しいが、あえて言うと、ひとつは、お年寄りが電子メディアであることのハードルを越えてでも利用したいと思うような、自分の生活や今までの人生の来歴に照らし合わせて面白くわかりやすいと思える内容を提供することであること、それとはある意味矛盾するが、中山間地域で、地域の活性化のために頑張っている若い人たち（移住者も含む）が、生活していくための仕事に役立つ情報、地域の良さを残しながら改革していくための情報を提供するもの、また、地方においても、世界の動きや息吹を感じられる新鮮な内容を提供するということになる。

なお、高知県電子図書館のタイトル数は令和二〇二〇年二月末で、二三一〇タイトル(他に雑誌記事等パッケージ二五〇〇タイトル)で、まだまだ充実が必要だ。

五 セーフティーネットの役割を果たす図書館

資料・情報提供を徹底すると、図書館そのものがセーフティーネットとしての機能を持つようになる。特に、社会保障や福祉関係の制度は複雑で、本来、それらの給付を受けることができるにもかかわらず、制度やサービスの存在を知らないために、苦境に陥ってしまうという人もいる。これらをわかりやすく説明した本や雑誌を提供するのは、公立図書館として欠かせない役割である。

さらに、図書館の場合、行政でも十分届かない部分について活動しているNPO他団体等の本もあるもので、調べれば、いろいろと手助けになる情報が出てくる。また、そういうものをサーチして収集・提供するのが図書館の役割である。

オーテピア高知図書館でも、がん情報の提供や、がんの相談会とのコラボレーション等に取り組んでいる。また、発達障害関係のセミナー等では出前図書館を行ったりしている。ただ、なかなか社会一般に「困ったときには図書館へ」というのは定着していない。また、「図書館は

静かに勉強するところ」というイメージが強烈に焼き付きすぎており、静寂読書室を四つ、学習室を一つ設けているのに、いまだ、音に関する苦情がよくあるというのが現実である。

六 進化型図書館

図書館情報学者として、非常に有名なランガタンが「図書館学の五法則」の一つとして、「図書館は成長する有機体である」と述べている。図書館は環境の変化に適応して進化しなければならない。

この概念は抽象的なもので、具体的には様々なものが考えられる。最も即物的なことでは、本や雑誌が増えていくので書庫が必要になるということである。現在のオーテピア高知図書館が大きいからといって、今後、図書館や書庫が必要にならないということではない。

また、サービスも情報通信技術の発達という環境変化に適応し、オーテピア高知図書館では、情報通信技術を活用したセルフ・サービスを大幅に取り入れ、セルフ貸出機九台、セルフ予約受取りコーナーの設置を行っている

る。ただし、返却については、人による確認が必須なため、館内返却ポストを設け省力化と利用者の待ち時間解消を図りつつ、返却作業を委託し、単位コストの縮減を図っている。

なお、自動化書庫については、年間の運用経費が百万円単位でかかること、レファレンス・サービスに対応しにくいことなどの理由から見送っている。ただし、将来的には検討が必要になるかもしれない。

さらに、オーテピア高知図書館の情報システムはアプリケーションをプログラミングするためのインターフェースを公開している。実際に、これにより高知工業高等専門学校が、スマートホン、タブレット用のアプリ「オーテピアアプリ」を開発し、検索した本がどの書架にあるか特定し所在地からのルートを表示する「読書通帳」の機能等を実現した。

七 図書館利用に障害のある利用者配慮した図書館

オーテピアは、かなり踏み込んで障害のある利用者

配慮している。声と点字の図書館との複合施設となっている点もかなり活用している。

著作権法の改正により、著作物を障害のある人向けに変換するに当たって、無許可で行える障害者の範囲とそれを実行できる施設が大幅に広がった。

以前は、公立図書館が著作物を視覚障害者向けに点訳・音訳するのには、いちいち著作権者の許諾が必要であったが、現在では不要である。点字図書館の数より公立図書館の数の方が多いので、この仕組みをもっと、公立図書館と自治体がいっしょに認識すれば、視覚障害者の社会参画はより推進される。

また、障害者の範囲も広がり、例えば、脳梗塞の後遺症によって、見えてはいるが文字が読めなくなっているような人も視覚障害者「等」として対象者となった。これは、聴覚障害についても同様のパターンとなっている。今後の知的付加価値の高い産業が隆盛する社会を考慮すると、感覚や身体的な障害は、それ自身では、むしろ大きな障害ではなく、そのような障害がある人でも、適切な情報変換がなされれば高度な仕事もできるようになってくる。この意味で、図書館の存在は極めて大きい。

とりわけ、発達障害の一種である読字障害・学習障害は、従来は、知能が劣るかのような誤解を受けていたが、必ずしもそうではなく、情報通信技術を活用し適切な形で情報変換し、それを図書館という場を通じて提供していくということが進めば、たくさんの方が知的労働市場に参入していくことができるようになり、国レベルの産業振興にも貢献することとなる。

オーテピアでは、ここまで先取りし、全館、音声ガイド付きにした。そのため、静かにしなければならぬという図書館の固定観念にとらわれず、代わりに、静寂読書室を四室整備した。また、点字ブロックも図書館開架フロア内にまで設置した。さらに、多機能トイレも基本的に各階に設置した(オストメイトのみ三階と五階にないが、他の階には整備)。

エレベーターも車椅子が方向転換しなくてすむように両側ドアとなっているが、途中階同士では対応できないので、この点は、研究課題である。

出色は、補助犬トイレである。盲導犬等の補助犬は訓練されているので、非常に忍耐強いが、やはり、生理的欲求を満たすものはあった方がよい。それで、オーテピ

アでは補助犬トイレを設けている。

さらに、施設のバリアフリーも大事だが、情報提供施設であるところの図書館で最も重要なのは、資料・情報のバリアフリーである。オーテピア内の分担として、著作権法上、利用者が限られるものは「声と点字の図書館」、障害者も一般の人も利用できるものは「オーテピア高知図書館」に置くこととした。ただし、どちらの窓口を利用しようと、双方の資料を利用できるようにした。このため、声と点字の図書館もオーテピア高知図書館と開館時間を合わせている。また、対面音訳室も声と点字の図書館に三室、オーテピア高知図書館に三室の計六室も用意し、ボランティアも含め一体的に運用している。

八 今後の課題

オーテピア高知図書館は、年間一〇万点(視聴覚資料等も含む)の貸出しを目標数値としているが、二年目で達成する見込みである。この点では、かなり成功した。

しかし、司書は若い人が中心で、まだ経験不足である。最も大きな課題は、この人たちが、厳しい環境下でモチ

ページョンを保ってサービスや蔵書を充実していけるかどうかということである。このため、月に一回ペースで司書研修を行っている。

もう一つは、合築の宿命であるが、やはりスペース不足である。約一万八〇〇〇平米もあるのに、なぜ、スペース不足なのかと問われそうだが、やはり、県立図書館と県庁所在地の市の本館とを合わせると、大変な蔵書量となる。なおかつ、高知県、高知市ともに、総合的な郷土資料館を持っていないために、図書館がその役割を代替している。スペースとして一番食うのはこの部分である。そのため、雑誌などは、思い切って保存期限をかなり短くしている。また、高知県、高知市とも、集会や催事のためのスペースが不足しているため、オーテピアの集会室、研修室、ホールがかなり使われている。

つまり、オーテピア高知図書館は純粋な図書館機能以外に持っている部分が多く、決して図書館としては広くないのである。資料費が減額されずに続いた場合、不足する保存スペースをどう担保するかが大きな課題である。なお、資料費自体を減らしてしまうことは、図書館の場合、三年くらいの遅れで利用者・来館者減につながるの

で、近隣の商店街のためにも好ましくない。第一、資料費を減らしてしまつては、コンセプトは実現できない。大変ハードルが高いが市町村立図書館も含めた共同保存書庫が実現できればという思いもあるが、具体的な方策が今のところない。県域も越える共同保存書庫という面で国の支援があると、全国の図書館は大変助かるかもしれない。産業政策を優位にしている明治以来の日本の政策では、図書館は日の当たらない分野だった。しかし、地方が自ら考えて産業を興していかなければならない時代になった今、充実した知的資源である図書館は必須である。その認識をオーテピア高知図書館が広めることができるかと切に願う。

季刊誌『発達』、40歳——「発達」を育む旅をつづけて

丸山 碧（ミネルヴァ書房 編集部）

学術雑誌という存在——学生時代の思い出

心理学専攻の学生時代、研究室や図書館でよく手にしていた図書。それが、『こころの科学』であり、『児童心理』であり、『現代のエスプリ』であり、そして『発達』であった。レポート課題や研究テーマに悩む学生にとって、特集ごとに新旧のそのエッセンスが短文で詰まった雑誌棚はまさに宝庫だった。図書館で度々手にした特集号を購入しようと、薄っぺらい財布を脇に抱えて大学近くの書店に立ち寄った。学術雑誌たちにお世話になった学生時代が懐かしく思い返される。

——当時は、その後本誌を担当することになるとは夢

にも思っていなかったが、今はお世話になった恩返し
の思いも抱きつつ編集作業に携わっている。ここでは、
『発達』がどんな雑誌であるかをお伝えしつつ、発達の
魅力や雑誌に関わる思いと願いを綴ってみようと思う。

『発達』という名に生まれて

季刊誌『発達』は1980年に創刊し、今年で40周
年を迎えた。時代の流れとともに子どもたちを取り巻く
環境も大きく変わってきたが、いつの時代も「特に乳幼
児期の子どもの育ち」に関心を寄せる保育者や実践者、
研究者などのみなさんに、今考えたい重要なテーマを最
新の知見とともにお届けしている。



『発達』創刊号(1980年1月)と第161号(2020年1月)
 (よくみると第134号以降の雑誌名のロゴには「双葉」がデザインされている。)

本誌の編集担当は初代編集長から数え、私で3代目となる。この雑誌を担当することになってから、既刊雑誌が保管されている地下倉庫はお気に入りの場所となり、創刊第1号はバイブルになった。特集テーマに悩むとき、第1号をそつとひらく。

雑誌刊行当初は、岡本夏木先生、村井潤一先生が本誌の監修をつとめてくださった。第1号をひらくと、巻頭「〈対談〉兄弟の少年期 河合雅雄VS河合隼雄」ではじまり、保育学、生物学、人類学などの様々な内容が120頁のコンパクトな紙面のなかにひしめき合う。

——学生時代、『発達』を研究室で見つけてはじめて手にしたとき「発達心理学」の雑誌かと思った。だが、その広範にわたる学際的な内容をみると、雑誌名はやはり『発達』なのだと感じさせられた。

創刊号からひも解く、『発達』

1980年の創刊号巻末の「編集室から」では、本誌刊行に至る経緯が書かれている。「発達心理学がこの10年の間に非常に多くの方々に興味をもたれてきました

……」と、この領域の関心の高まりに触れながら、「しかしながらなによりも出版社にいて本を出す立場から鋭く感じられますことは、(中略)特に60年以後少なからぬ個人的・組織的失望とともに政治・経済はなれはずみ、科学・技術の進歩が追い打ちをかけるように人々を内省化させてきたように思われます。発達心理はそういう個人の内面を見つめだした人々や、問題多い子育てへの反省を強いる声にならぬ激励を与えたり、より一層の不安を与えながら肥えふとってきたともいえるのです」と。そして「小さなちいさな雑誌を出すことが、どれほどのことを実現できるかは本当に心もとない話なのです。しかしどうしても出してみたいと思ったことの理由のなかには、人間が人間を見つめなおし、人間の社会を見つめなおすことのためには、非常に多くの人々、発達心理をやる人はもとより、直接人間をつくる(?)保育や教育に携わる人々の、また関連分野、特に生物、社会福祉、文化人類学、医学などの人々の集中的な参加が必要であり、その場をとにかくつくりたいと思ったからに他なりません」とつづく。——生涯発達しつづける人間が人間を見つめなおし、社会を見つめなおす、その創刊時の精神を

今も本誌の大切な中核に据えている。

発達のオモンロさ・子どものカワイさ…私的経験から

私自身、学生時代「発達」に関心を寄せるひとりであった。——16歳・高校2年生とき、夏休みを利用して1カ月間、オーストラリアでホームステイをした。ホストファミリーの小学生の子どもと一緒に地元の小学校に通い、一緒に勉強して帰宅する1カ月を送った。クラスメイトも自然と受け入れてくれて小学生に戻った気分と一緒に活動をした。そのときのすべての経験が驚きで、文化を含む人間にとっての「環境」の意味を感じた。なかでも、自己表現豊かで愛情深いホストマザーの「おかえりなさいのハグ」の力強さに圧倒された(何年ぶりの再会か!と思うほど毎下校後に強く抱きしめられ、「よく無事だったわね!」)「どうだった? 楽しかった?」と矢継ぎ早に質問を受ける)。そのとき、16歳の私はごく数年前の子ども期を別環境で追体験したような感覚に至り、乳幼児期からこうした環境にいたら自分はどうなっていただろうかと素朴な問いが生まれた。

大学時代はアルバイトや研修で週の半分を保育所や幼稚園に通って過ごした。子どもたちと同じ場をともし、観察することがただ楽しかった。そこで知ったことは、「子どもはただ可愛い存在ではない」ということ。それまではなぜか「絶対的に」子どもは可愛い」のだと思っていた。ところが、長時間多人数の子と過ごすなかで、私の願いや主張と彼らの主張とがぶつかり合うことも多い。それは当然のことなのだが、当時は「相手も人間だもの、そりゃそうだ」と気づくのに少し時間が必要だった。そして、子どもたちはひとりの人間であり、(時に大人の予想を超えるようなことを起こす)魅力的な存在であり、私たちに様々な気づきを与えてくれる存在だと知った。

——そんな子どもたちをめぐる知られざる発達の様相はとても面白くて魅了されるものだ。また一方で、発達をめぐる様々な課題は真に私たちが向き合わなければならぬ喫緊の問題である。本誌ではこの両方を特集として扱っている。主に乳幼児期を対象に特集を組んでいるが、こうした子どもたちの発達を考えることは、ひいては「人間が人間を見つめなおし、社会を見つめなおす」ことなのだと思う。

今ここで何を共有し、ともに考えたいか?..最近の特集

雑誌を通して読者のみなさんとともに考えたいことが多々あるなかで、議論の機会は年に4回。いつものテーマにするか、悩みを重ねている。雑誌の愛読者カードや研修会などで出会う読者のみなさんの声、また国の動向や社会の関心事、学会での発表などを受けて特集を検討している。「保育の場から考える新指針・新要領」(保育の三法令改正)、「子どものトラウマのケアとレジリエンス」(東日本大震災から5年)など国の動向や社会の関心事を受けた特集や、「ことばとコミュニケーションの発達」「最新・アタッチメントからみる発達」「なぜいまレジャ・エミリアなのか」「脳・身体からみる子ども」の心」「わたしの自閉症論」など、注目の高まりを感じるテーマも読者のみなさんと考えてみたい思いで特集を組んできた。

なかには、社内で否定的な意見があがり悩んだものもある。たとえば3年前の「子どもの貧困」特集。「大切な問題だけれど、本誌で特集しなくても……」というの

が大きな理由だった。しかし最前線で活躍するNPO法人の方にお話を聞くなかで、やはり読者のみなさんとこのテーマを考えてみたいと思った。印象的だったのが、「貧困の子は、金銭的な生活の豊かさ」を奪われているだけではない。大人や年長者と出会い学ぶ機会を失うという意味での「貧困」を体験している」ということ。

費用面から友達のように習い事に通えず、部活にも行けず、近所の公園に行っても誰もいない昨今、親が仕事から帰宅する深夜まで自宅で過ごすことを考えると、実際に出会う大人・年長者は担任教師くらいだと。模範となるような、これから先の人生の想像を抱けるような大人や先輩に出会えない状況がまた貧困なのだと。そう聞いて、「子どもの7人に1人が貧困である」という「数」の現実ではなく、その内実に向き合う必要を感じずにはいられなかった。たとえ今すぐに必要な情報ではなくとも、発達をとらえるうえで重要であり『発達』の場で考えたいと思った出来事だった。

雑誌とともに月日を重ねる、魅力的な連載たち

また、本誌は毎号の特集にくわえ、雑誌の約3分の1を占める連載も実に多彩である。毎号続きを読めることを一読者として楽しみにしている。たとえば、連載140回を超える「霊長類の比較発達心理学」では、現在4名の執筆者が交替で担当してくださっているが、子育て中の母親研究者・林美里先生は自分の子どもの成長発達をとらえながら、サルやチンパンジーの様子を比較紹介する、今までにない試みをされている。その比較によって、あらためて人間という存在に気づかされる。同時に、『発達』の号数とともに娘さんの成長がみられ、「こんなことをするようになったのね！」などの驚きとともに、その発達の变化が面白い。

また佐藤暁先生の「障がいのある子の保育・教育のための教養講座」では、具体的な事例などを紹介しながら、毎号書籍を引用して解説される。その書籍も専門書から小説まで様々。引用しつつ解説されるその作業がとても丁寧で、読めば読むほど理解が深まる。文中の子どもの

ことを想像しながら読んでいたはずだけど、最後には自身のことにもまで考えをめぐらせていたりするのに驚いてしまう。子どもをめぐる新たな発見とともに、人間として生きるということに出会わせてくれる連載だ。

——すべては紹介できなかったが、複数の魅力的な連載が「発達」の面白さに出会わせてくれる。

答えのないことを味わうということ…本誌の願い

雑誌読了後、校正者や営業マンに尋ねていることがある。「今号はどの章が印象的でした？」と。するとやはり着眼点が様々で回答に個性が出るのが面白く、ついつい尋ねたくなる。

(二時、いや今もそうだが)とにかく手っ取り早く答えを知りたい、長く待つことがつらい、と思うことがある。その大きな理由のひとつは時間に追われる毎日を生きているからだろう。何かに困ったとき、「AをすればBになる」というシンプルな回答を得られたらどんなにいいだろう……と思う。ただ、子どもたちをめぐる問題はすぐに答えが出ない(出せない)ことのほうが多いのではな

いか。本誌を担当しながらあらためてそう感じるようになった。

本誌では、大切に考えていることがある。そのひとつが「多様な意見、多彩な視点」である。個性をもった一人ひとりの人と向き合う営みを考えるとき、視野の広さや引き出しの多さが手助けになることがあると思う。様々なフィールド、視点をもった著者に参加していただき、多彩な性格を帯びた紙面づくりをめざしている。雑誌の目次をひらき「興味がないな」「むずかしそう」と思う項目も、できれば目を通していただけたらと思う。複数の視点を取り込んだうえで、自分なりの答えを見つけたらということ、そのプロセスを体験できる雑誌でありたいと考えている。

そしてもうひとつは、「生活の場、臨床の場を基本とした子どもの報告を中心に据えながら、理論の探究を試みようとすることである。『発達』第1号から監修を担われた岡本夏木先生は、「私が考え、また経験したことを、私を表現主体として述べる、つまり「私が私としてありうる」表現の場であったところにその意味を見出しておきたい」と、第100号で本誌について述べてい

る。編集をしていて思うのは、保育の場で、臨床の場で、教育の場で、日々様々な子どもたちと出会う執筆者たちが紡ぐ「言葉のすじみ」である。私という視点でしかない、私の人生をみな生きているが、執筆者の視点から紙面をつうじて子どもたちに出会うと「ハッ」とさせられる。執筆者が出会った子どもたちにも出会えた気がして、豊富な経験を重ねられた思いがする。そうした気持ちを明日からの実践に、生活に、研究に、生かしていただきたい、それが本誌の願いである。

「発達」を育む旅へ

ある学会でのこと。「少子高齢化が進み、これからは高齢者の時代なのに、乳幼児期の子どもをいつまで対象にするの？」と尋ねられた。そのときはうまく答えられなかったのだが、これを機に、本誌の意味をあらためて問うた。

本誌の100号記念では岡本先生がこんなことを残している。「人間に「生きられた時間」とその意味があるように、雑誌にも「生きられた時間」とその意味がある

のかもしれない」と。そして、本誌刊行当時を振り返り、「我々が自由に発達を論じ、また身近な所で接する子ども姿や、直接かかわる障害児の成長の過程を述べ、それへのかかり方について意見を交わせるような場はなかった。そうした論文をうけいれてくれる学術誌も皆無と言ってよかった」と、本誌の意味を語っている。

本誌は今年40歳を数える。この生きた時間を振り返りながら、これから生きる時間の意味を考え、第162号の編集作業にかかる。雑誌として「生きられる時間」を存分に活用し、読者のみなさんと議論を交わせる場を、子どもたちの健やかな発達を応援する場を提供していきたい。

「性格は育てる人に似ると思います。この小さな誌を育てるのは読者のみなさまであろうと思います」

——ちょうど40年前、創刊時の編集者がこう残している。今季も雑誌をお届けできる喜びを抱きながら、読者のみなさんには今後も忌憚のないご意見をお聞かせいただけたいと思う。これからの『発達』も読者のみなさんとともに育んでいきたい。

人文会会員名簿

〒113-0033 文京区本郷2-20-7 みすず書房内

2020年4月現在

社名	担当者	〒	住所	電話	FAX
大月書店	佐藤 信治	113-0033	文京区本郷2-27-16 2F	3813-4651	3813-4656
御茶の水書房	平石 修	113-0033	文京区本郷5-30-20	5684-0751	5684-0753
紀伊國屋書店	志田 則幸	153-8504	目黒区下目黒3-7-10	6910-0519	6420-1354
慶應義塾大学出版会	乙子 智	108-0073	港区三田2-17-31	3451-6926	3451-3124
勁草書房	西野 浩文	112-0005	文京区水道2-1-1	3814-6861	3814-6854
春秋社	吉岡 聡	101-0021	千代田区外神田2-18-6	3255-9611	3253-1384
晶文社	片桐 幹夫	101-0051	千代田区神田神保町1-11	3518-4940	3518-4944
誠信書房(休会中)		112-0012	文京区大塚3-20-6	3946-5666	3945-8880
青土社	森 卓巳	101-0064	千代田区神田猿楽町2-1-1 浅田ビル1F	3294-7829	3294-8035
創元社	水口 大介	101-0051	千代田区神田神保町1-2 田辺ビル	6811-0662	3219-7800
筑摩書房	廣井 一茂	111-8755	台東区蔵前2-5-3	5687-2680	5687-2685
東京大学出版会	澤畑 壘	153-0041	目黒区駒場4-5-29	6407-1069	6407-1991
日本評論社	五月女 公	170-8474	豊島区南大塚3-12-4	3987-8621	3987-8590
白水社	岩野 忠昭	101-0052	千代田区神田小川町3-24	3291-7811	3291-8448
平凡社	登尾 純一	101-0051	千代田区神田神保町3-29	3230-6572	3230-6587
法政大学出版局	朝倉 哲哉	102-0073	千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎1F	5214-5540	5214-5542
みすず書房	田崎 洋幸	113-0033	文京区本郷2-20-7	3814-0131	3818-6435
ミネルヴァ書房	本橋 弘行	101-0062	千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング2F	3525-8460	3525-8461
吉川弘文館	片山 伸治	113-0033	文京区本郷7-2-8	3813-9151	3812-3544

代表幹事 田崎洋幸

会計幹事 平石 修

書記幹事 片桐幹夫

《◎委員長(幹事) ○副委員長》

販売・企画委員会 ◎朝倉哲哉 ○森 卓巳・佐藤信治・志田則幸・五月女 公・登尾純一

調査・研修委員会 ◎水口大介 ○片山伸治・西野浩文・澤畑 壘

広報委員会 ◎岩野忠昭 ○乙子 智・吉岡 聡・廣井一茂・本橋弘行

人文会ホームページ <http://www.jinbunkai.com/>

(各種情報/各社へのリンクはこちらからどうぞ)

「高校生のためのブックガイド」のご案内

人文会では会員各社の刊行物の中から、高校生に読んでほしい書籍を2点ずつ厳選し、「高校生のためのブックガイド」として1枚のリーフレットにまとめました。書店外商部様や書店店頭でのフェアなどで活用いただいております。



目録のご案内

人文図書3分野の基本図書および最新刊を網羅した年度版の図書目録です。

- 人文図書目録刊行会発行 A5判・平均200頁 頒価本体(各)286円



◆哲学・思想図書総目録2020-2021年版

約1,700点(114社)収載。

[掲載分野] 哲学・思想一般/倫理学・人生論/美学/各国哲学
/現代哲学/宗教一般/宗教学 ほか



◆心理図書総目録2020-2021年版

約2,400点(95社)収載。

[掲載分野] 心理総論/基礎心理/発達心理/教育心理/臨床心理
/精神分析/精神医学/社会心理 ほか



◆社会図書総目録2020-2021年版

約2,200点(118社)収載。

[掲載分野] 社会一般/家族社会/地域社会/産業労働/福祉・
教育/社会問題/文化文明論/文化人類学/民俗学ほか

* ご注文は書店にお願いいたします。

- 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7(みすず書房内)

- 人文図書目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24(トーハンビル内)

TEL 03-3266-9521(事務局)

スマートマシンはこうして思考する

ジェリッシュ 人工知能はどうやって「思考」する？ AI
バブルに煽られないための知識。 依田訳 栗原解説 三〇〇円

暴落

金融危機は世界をどう変えたのか「全2巻」

トウズ リーマンショックから10余年。未曾有の危機が政
治経済をいかに再編成したかを描く。 江口・月沢訳 各四〇〇円

良き統治

大統領制化する民主主義

ロサンヴェアロン 法、議会、独裁がせめぎあう統治の歴史を
たどり、新たな民主主義の展望を開く。 古城毅他訳 五〇〇円

文明史から見たトルコ革命

アタテュルクの
知的形成

ハニオール 近代西洋理念に則る建国という壮大な社会実
験。西洋と東洋の狭間から歴史を読む。 新井政美監訳 四〇〇円

みすず書房 (税別)

東京本郷2-20-7 www.ms2.co.jp

日本史を学ぶための

図書館活用術

辞典・史料・
データベース

浜田久美子著 大学のレポート作成に、日本史の学び直し
に、図書館のレファレンスに必備の手引き！ 1800円

鎌倉時代論

五味文彦著 3200円

中世史研究を牽引してきた著者
が、京と鎌倉、二つの王権から
見た通史を平易に叙述する。

近代皇室の社会史

側室・育児恋愛

森暢平著 伝統的な婚姻・子育ての形を色濃く残してい
た皇室がなぜ近代家族「化」の道を通ったのか。 9000円

吉川弘文館 東京都文京区本郷 7-2
☎03-3813-9151 税別

2020-2021年版

哲学・思想図書総目録

哲学・思想一般 / 倫理学・人
生論 / 美学 / 各国哲学 / 現代
哲学 / 宗教一般 / 宗教学 ほか

心理図書総目録

心理総論 / 基礎心理 / 発達心
理 / 教育心理 / 臨床心理 / 精
神分析 / 社会心理 ほか

社会図書総目録

社会一般 / 家族社会 / 地域社
会 / 産業労働 / 福祉・教育 /
社会問題 / 文化文明論 / 文化
人類学 / 民俗学 ほか

◎A5判・平均200頁 ◎頒価本体各286円

人文図書目録刊行会

〒162-8710

東京都新宿区東五軒町6-24

トーハンビル内

季刊 [発達] 1・4・7・10月各25日発売

B5・並製・本体1,500円

発達160 いま、津守真に出会う

保育学・心理学の領域に広く大きな影響を与えた
津守真先生の追悼記念特別号。その理論と実践
そしてそれを支える思想と人物像を描き出す。

発達161 わたしの自閉症論

臨床や教育の場で様々な出会いを経てきた著者
たちが事例とともにそれぞれの言葉で「自閉症
について語る特集。創刊40周年記念号。

発達162 保育の新しい物語

ピーター・モスの議論を紹介しながら、レッジョ・
エミリアやスウェーデンの報告、園での実践な
どを紹介し、質を超える新しい物語を探索する。

ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町1

TEL075-581-0296 価格税別

LIFE **好評3刷**

3.0 人工知能時代に 人間であるということ

マックス・テグマーク 水谷淳 訳

未来の人類の運命は我々に託されている。この忘れがちなことをしっかり心に留めておくためにも、ぜひ読んでおきたい一冊。
— 仲野 徹 (大阪大学教授)

超知能AIが出現したら何が起こるか？ AI安全性研究を牽引する著者が、現在考えうる各シナリオを論じた全米ベストセラー。31か国で刊行が決まったAI論の決定版！ ▶ 本体価格 2700円+税

紀伊國屋書店

出版部:東京都目黒区下目黒 3-7-10
営業 TEL03(6910)0519

気持ちいいから恐ろしい。
ネット上で話題沸騰の入門講義

ファシズムの 教室 なぜ集団は 暴走するのか

田野大輔 著 46判・1600円

推薦☆荻上チキ(評論家) 岸政彦(社会学者)

国家資格化決定！
動物看護師ってどんな仕事？

動物の 看護師さん

動物・飼い主・獣医師をつなぐ6つの物語

保田明恵 著 46判・1600円

東京文京 本郷2-27 大月書店 電話03-3813-4651
otsukishoten.co.jp (税別価格)

慶應義塾大学出版会

<http://www.keio-up.co.jp/>

自由なき世界

フェイクデモクラシーと新たなファシズム

ティモシー・スナイダー 著/池田年穂 訳



ロシアによるクリミア併合、ヨーロッパにおける相次ぐ右派政権の誕生、イギリスのEU離脱、トランプ大統領誕生など、近過去のトピックを歴史化し、右傾化する世界の実態を捉える話題作。

各◎2,500円

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 【価格税抜】
Tel 03-3451-3584 Fax 03-3451-3122

御茶の水書房

戦没者はいかに扱われてきたか。著者渾身の三部作完成。
近代群馬と戦没者慰霊
今井昭彦 著 菊判 三三八頁・本体六八〇〇円+税

敗戦までの展開
対外戦争戦没者の慰霊
今井昭彦 著 菊判 五〇八頁・本体八八〇〇円+税

反政府軍戦没者の慰霊
今井昭彦 著 菊判 四五八頁・本体七六〇〇円+税

東京都文京区本郷5-30-20 ☎03(5684)0751

天皇と軍隊の近代史

加藤陽子

本体2200円＋税

戦争の本質を掴まえるには何が必要なのか？ 天皇制下の軍隊の在り方の特徴とその変容を描き出す。

実践・倫理学

現代の問題を考えるために

児玉聡

本体2500円＋税

倫理的な考え方を身につけたい人に向けた道案内。知識ではなく考え方を学ぶための入門書。

ナウシカ解説 増補版

稲葉振一郎

本体2700円＋税

宮崎駿から長谷川裕一、伊藤計劃に加え、虚淵玄らポストエヴァンゲリオン時代も含めて論じなおす。

勤草書房 TEL 03-3814-6861
FAX 03-3814-6854
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1
<http://www.keisoshobo.co.jp>

急に具合が悪くなる

紀伊國屋じんぶん大賞2020入選(10位)



好評7刷!

がんの転移を経験しながら生き抜く哲学者と、臨床現場の調査を重ねる人類学者の間で交わされる「病」を巡る対話。魂が震える勇気の物語へ――

宮野真生子

磯野真穂

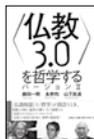
本体価格1600円＋税

晶文社 〒101-0051 千代田区神田神保町 1-11
Tel.03-3518-4940 Fax.03-3518-4944

衝撃の鼎談集、第二弾!

〈仏教3・0〉を

哲学する バージョンII



●藤田一照／永井均／山下良道

1800円

従来の仏教のアップデートを目指す二人の仏教僧と一人の哲学者が、仏教の実践における他者と慈悲の問題を、理想の実践体験や哲学の理論を通して論じる。

好評5刷 〈仏教3・0〉を哲学する 1800円

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6 (税別)
☎ 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384
○web春秋 はるとあき 人気連載更新中!
<https://haruaki.shunjusha.co.jp/> ⇒

影響力の武器

実践編 [第二版]

「イエス!」を引き出す60の秘訣

N.J.ゴールドスタイン・S.J.マーティン・R.B.チャルディーニ著
安藤清志 監訳 曾根寛樹 訳 豊富な実例が好評の「実践編」が新たなシーンを加えより実用的に。ビジネス等の交渉で有利になる術を伝授。2200円

フィクションが現実となるとき

日常生活にひそむメディアの影響と心理
カレン・E・ディル・シャックルフォード 著
川端美樹 訳 メディアの影響を、社会心理学によって分析。注目度の高い問題を扱いながら社会心理学の入門書としても適した内容。3200円

実践 職場で使える カウンセリング

予防、解決からキャリア、コーチングまで
諸富祥彦・小澤康司・大野萌子 編著 産業界のカウンセラーに必要な知識はこの一冊で網羅できる。2300円

誠信書房 Tel 03-3946-5666
SEISHIN SHOBO 東京都文京区大塚 3-20-6 (税抜)

『ちくま』好評連載
「とびだせ教養」大幅加筆！

教養の書

戸田山和久

名古屋大学教授

定価(本体1800円+税)

刊行即重版

ベストセラー『新版論文の教室』の著者が
大学新入生に語り続けてきた名物授業
現代版「学問のすすめ」

おかげさまで80周年 **筑摩書房**
営業部 ☎03-5687-2680
<http://www.chikumashobo.co.jp/>

その世界の猫隅に

齋藤環

稀代の精神科医にして批評家が、文学から絵画、音楽から映画まで、快刀乱麻を断つべく徹底批評。

ファシズムはどこからやってくるか

大衆の情動はいかにして扇動されるのか。政治的手法の歴史と現在から、及び寄るファシズムの正体が明かされる。

ジェイソン・スタンリー

2000円

私たちの中東 ロジャヴァの革命

民主的自治とジェンダーの平等 ミヒヤエル・クナツプ

草の根民主主義・ジェンダーの解放・エコロジー重視など先進的理念。ロジャヴァから究極革命の意味と実情を追求する。

3200円

青土社 東京神田神保町 ☎03-3294-7829
<http://www.seidoshaja.co.jp/> (価格税抜)

心理学

【第5版 補訂版】

鹿取廣人・杉本敏夫 [編]
鳥居修晃・河内十郎

「こころの科学」の全体像をバランスよく俯瞰し、体系立てて学べる信頼のロングセラーテキストの補訂版。認知神経科学関連の情報を中心に記述内容を補充。

2400円+税



東京大学出版会
〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991
<http://www.utp.or.jp/>

創元社

「数はいかに世界を変えたか」

●ビジュアルガイドもど知りたい数学① トム・ジャクソン 著
緑慎也 訳

偉大な発見は書物によつて 人類の知となる——
プライアン・クレグ 著
石黒千秋 訳

世界を変えた150の科学の本

「数(Numbers)」とは一体なんなのか？数がいかにこの世界を形づくりに、また変えてきたのかを美しい図版や事例をもとに紹介。

▼B5判変型・並製・184頁・定価(本体2400円+税)

偉大な発見は書物によつて 人類の知となる——
プライアン・クレグ 著
石黒千秋 訳

「ゴッティフラス全集」から「サイエンス全史」まで、豊富なビジュアル資料でたどる自然科学書2500年の歩み。

▼B5判変型・上製・272頁・定価(本体2800円+税)

大阪市中央区淡路町4-3-6
☎06-6231-9010 Fax06-6233-3111
千代田区神田神保町1-2 ☎03-6811-0662

2020年4月25日発行 年3回発行 第134号

発行所 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7 みすず書房内

編集協力 アジュール・プロダクション

印刷 中央精版印刷株式会社

〈非売品〉